

令和5年度 第2回学校運営協議会 議事録

1 開催日時

令和6年2月22日(木) 10:00~11:00

2 会場

高田高校会議室

3 会の内容

(1) 開会

(2) 校長挨拶

本日の第2回の学校運営協議会は、本校の今年一年間の活動や取組について評価していただき、次年度につなげる役割がある。取組状況については担当から説明があるので、忌憚のないご意見をいただければと思う。

また、今年度からコミュニティースクールに移行したということで、行き届かなかった点があったかと思うが、次年度に向けてこの学校運営協議会の持ち方やあり方について、ご要望やご提案をいただければ幸いである。

(3) 協議

○議長

(1) 令和5年度における学校運営実績について、説明いただきたい。

○副校長

会議資料3ページを見ていただきたい。4月にも示した令和5年度学校経営計画である。本日は、今年度の重点目標(ア~カ)の評価を委員の方々にしていただくことが主な目的である。

【重点目標1】は「学校の教育活動全体を通じて知・徳・体をバランス良く育む」である。

(ア)については、互見授業とは教員同士の授業見学会で年に7回実施している。他に県教委の指導主事などを交えた授業研究会、生徒による年2回の授業評価を行っている。(イ)については、陸前高田市から援助を受けて、リクルート社のスタディサプリを導入しており、生徒が講義の動画を見ることができることが最大の特徴である。(ウ)については、本校は部活動が盛んであり、比較的高い加入率を維持していることが特徴である。

【重点目標2】の「地域に開かれた教育活動を推進する」について、これが本校の一番の特徴と言える。T×ACTIONの展開により、自治体や地域企業、団体との連携を密にして様々な活動を行っている。ここにあるのはその一部であり、20~21ページに「令和5年度外部団体との連携リスト」を作成したので参考にしていただきたい。ここには、例えばチラシ配布の依頼とか、地域からのアルバイト要請についてなどは含めていない。

【重点目標3】の「地域や社会の復興・発展に貢献するグローバルな人材を育成する」につ

いては、(ア)のSDGs関連、(イ)のキャリア教育関連など、多くの地域の団体や企業と連携して活動している。特に今年は、T×ACTIONがSDGsに貢献する活動となっていることから、岩手日報からの取材や東北SDGs未来都市シンポジウムでの発表など、活動に幅を持たせることができた。また、陸前高田市からの支援を得て、陸前高田市と関係の深いシンガポールと姉妹校であるアメリカのデルノーテを毎年交互に生徒を派遣する枠組みが構築された。今年度はシンガポール、来年度はデルノーテへ生徒を派遣することになっている。

【重点目標4】の「復興・防災・減災教育を充実させる」については、県でも重きを置いているところである。校舎が全壊し、県内でも最も被害が大きかった地域に存立する本校は、その取組を最重要視している。今年度は京都工学院高校との復興防災減災連携学習を行い、来年度以降も継続する予定となっている。

【重点目標5】の「海洋システム科の活性化を図る」については、今年度から6次産業化を視野にコース制を廃止した教育課程となった。各種資格の取得や、佐々木市長による海洋システム科の生徒に対する授業が実施された。海洋の行事がある度にnoteで情報を発信している。水産高校を取り巻く環境は厳しいものの、何とか生徒増につながればと考えている。

【重点目標6】の「実効的に機能する学校いじめ対策組織を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる」については、いじめに関するアンケートの実施や人間関係づくり講座などのサポートはもちろん、文化祭などの学校行事や本校ならではの校外学習、ボランティアなど、さまざまな活躍の場を用意することで生徒が活躍できるように考えている。

(キ)の令和5年度学校運営実績では、広田水産高校時代から続いている海岸清掃活動が評価され、国土交通大臣表彰を受賞した。女子バレー部については、高総体や新人戦、春高バレーで準優勝し、女子ソフトテニス部は個人でインターハイ出場、新聞委員会は4年連続の県最優秀賞、全国高文祭に出場した。

また、SNSであるnoteの発信については県内の魅力化フォーラムで好事例として紹介された。

(ク)のその他の主な教育活動では、海洋関係と修学旅行である。特に東北地区水産・海洋系高等学校産業教育意見・体験発表会で最優秀賞を受賞し、長崎県での全国大会でも優秀賞を受賞している。

(ケ)の進路状況は表の通りである。2月8日現在ということで最終的な結果は3月末となる。今年度は就職が32名と例年に比べて多いことが特徴である。

説明は以上で終了である。

○議長

重点目標1から6まで説明があったが、それではこの件についてご意見等あればお願いしたい。先ほど校長からもあったように忌憚のないご意見を出していただきたい。

○議長

特に意見が出ないようなので、後でもよいので気がついたときをお願いしたい。
それでは続いて(2)の「令和5年度学校評価について」に入る。説明をお願いしたい。

○副校長

(2)の令和5年度学校評価について資料の11ページを見ていただきたい。毎年、生徒・保護者・教員に行っているアンケートの結果となる。AとBが肯定的な評価となる。全質問のAとBの平均値が昨年度は90.2%で、今年度は92.2%となった。前年度も決して低い評価ではないのだが、今年度はさらに上回る結果となった。特徴としては質問⑤、質問⑩、質問⑯などで、大幅なアップがみられる。13ページからは保護者の自由記述に対する回答となる。これらはHPにも掲載されている。

○議長

それでは、この件について、ご意見のある方はいるか。

意見が出ないようなので、それでは今までの議事を踏まえ、資料17ページにある令和5年度岩手県立高田高等学校評価報告書について検討していきたいと思う。重点目標ア～カの達成指標が2列目に書いてある。それに対する自己評価が3列目に書いてある。項目ごとに説明をしてもらい、皆さんから学校関係者評価のところのご意見を頂きたい。

○副校長

アについての達成指標は「わかりやすい授業をはじめ、丁寧な学習指導が行われている」と答えた生徒が90%いれば達成ということになる。結果は96.2%であった。

●委員

非常にわかりやすい授業をはじめ、丁寧な指導が行われているとのことで、5ページにあるように先生方の学ぶ姿勢が素晴らしいと感じた。互見授業も多く行われ、授業研究会や授業評価、特に子供たちの評価は結構厳しいものだと思うが、その中で評価したものを授業に反映させている成果なのかと思う。先生方の熱意を感じた。

○議長

続いて、「地域に開かれた教育活動を推進する」というところを説明していただきたい。

○副校長

達成指標は地域行事やボランティア、インターンシップに参加した生徒の割合が90%以上とした。それに参加した生徒の割合が97.1%という結果になった。これは年間の行事の参加数を全部カウントして出した数字となっている。

●委員

私自身がこの学校の卒業生であるが、その時のことを考えれば、今の子供たちはしっかりと、ボランティア等に積極的に参加していると感じた。

●委員

地域ボランティア活動に非常に多くの生徒が参加されている。私も高田高校の入り口から入ってきた時、生徒から挨拶をされた。また、街中ですれ違った時にも高田高校の皆さんが地域の人たちに対して挨拶をしているのを見ると、このような地域行事やボランティアに参加することで、世間を知る機会が増え、そういう経験が挨拶等の態度として表れているのではないか。

○議長

続いて、「地域や社会の復興・発展に貢献するグローバル人材を育成する」について説明していただきたい。

○副校長

達成指標は地域課題解決プランを作成し発表した生徒の割合が90%以上とした。これについては、2年生の立教大学との取組の中で、地域課題解決プランを作成している。その該当の生徒が作成した割合が100%ということになる。

●委員

生徒が地域課題解決プランを作成したということであるが、例えばどのようなことを地域課題と考えて、どのようなプランを発表したのか、代表的なものでよいので紹介して欲しい。

○企画情報課主任

医療・福祉・保育とか様々な分野に分かれて作成した。特徴的なものとして、外国出身で市内に在住している方が、本当に暮らしやすいのか、防災の観点から考えたものがあつた。また、市の目標でもあるノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくりをしているのかという観点で探究した生徒もいる。あとは、コロナ禍を経験している生徒たちなので、教育のICTの推進について、教員を志すチームが探究したという実例があつた。

●委員

2年生が立教大学と連携しているということだが、陸前高田市のほうでも立教大学や岩手大学と連携しているグローバルキャンパスを運営しており、このような地域課題についての取組を進めている。高田高校のこのような取組に対し、市の方でも協力し、人材育成等につなげていきたいと考える。

●委員

今、取組の中で、外国人の防災の話が出てきたと思うが、実は文化庁の事業で陸前高田の国際交流協会が手を挙げている地域日本語推進事業に関わっている。ぜひ、高校もそういう方々

の日本語教育、それから地域の外国の方と地域住民が関わるような活動に参加して欲しいと思っている。

○企画情報課主任

今後もそういった取組を継続していく予定である。また、外国人の方も暮らしやすい、訪れやすい陸前高田市の実現のために、何かコラボレーションできるものがあるなら、声を掛けて欲しい。

○議長

続きまして、「復興・防災・減災教育の充実」について説明をいただきたい。

○副校長

達成指標として、それらに関する講演会、研修会、訓練に参加した生徒の割合を90%以上と設定した。実際に年間を通じてイベントの参加者を確認したところ、参加者の割合は96.4%という結果になった。

●委員

訓練に参加ということであるが、陸前高田市とかでも避難訓練をやるが、その状況を見ると、なかなか参加者が少ないと感じている。訓練とはどのようなものか。

○副校長

学校の訓練は年に2回、避難訓練を行っている。あとは先ほど説明した防災減災の外国人とのイベントや消防が主催するイベントに参加しているということだ。

○議長

続いて、「海洋システム科の活性化を図る」という件に関して説明をいただく。

○副校長

達成指標を各種資格や検定を取得した生徒の割合を90%以上と設定した。海洋システム科では1年生から3年生まで、全ての生徒が各種資格や検定を複数取得している生徒が100%ということで、1年生の段階で2つの資格を取っている状況となっている。

●委員

資格や検定というものは、就職に直結してくるものだと思う。生徒はどのような資格を取って、どのいったところに就職しているのか聞きたい。

○海洋システム科主任

専門教科に関する資格としては、食品技能検定やダイビング、海洋技術検定の資格等がある。教科以外のところでは、社会に出て通用するであろう危険物、溶接などの資格を取得している。

教科の資格は水産校長会で主催しているもので、社会的に認知されているかどうかというところ、まだアピール不足のところがある。ただ、食品関係の HACCP 技能検定とかは民間でも大事にしてもらっている資格なので、それらを取得して食品会社へ就職している。今年度はいなかったが、潜水士の資格を取得して潜水関連の企業へ就職する生徒もいる。

●委員

高田高校を訪問した際に「水産と海洋の科学」という教科書を目にした。これの中身を私どもも JAMSTEC の職員が書いているのだが、この教科書の中身や最先端の水産と海洋科学に関連する内容について、もし可能であれば遠隔授業みたいなこと、あるいは私たちが遠隔授業をしているビデオを皆さんに見ていただくということを検討しているので、来年度実現できればと考えている。

○海洋システム科

科としても外部の先生方から、話を聞ける機会を増やしたいと考えているので、その際にはこちらからもお願いしたい。

○議長

それでは最後の「実効的に機能する学校いじめ対策組織を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる」について説明をいただく

○副校長

達成指標はいじめや嫌がらせがなく、落ち着いた学校生活を送っていると答えた生徒の割合が 90%以上ということで、学校のアンケート結果により肯定的に答えた生徒の割合が 92.4%ということで指標は達成した。

●委員

数字のとおり、いじめや嫌がらせがなく落ち着いた学校生活を送っている生徒が約 93%いるということであるが、残りの約 7%の生徒が落ち着いた学校生活を送れていないということになる。その 7%の生徒のデータがないが、その生徒に対して学校からはどのような対応をされているのか。

○副校長

いじめについては、県に全部報告している。そのことから昔に比べ、ちょっとしたことでも先生方に事情を聞かれるというケースが増えている。実際は発見次第そのような処理をしているので、生徒が被害を訴えやすい状況になっている。

○生徒指導課主任

いじめに関する疑いも含めて、今年度は 10 数件ほど対応した。そのうちいじめと認知したものは 12 件くらいである。先ほど副校長からも説明があったが、何かのグループ活動をする際

に仲間に入れないとか、細かいが相談を受けた場合には対応しており、状況を確認しながらいじめの定義に当てはめていき、該当するものであれば認知として県に報告するという事になっている。本当に細かいところから拾い上げているのが今のやり方であり、昔のような怖さのあるいじめ等とはちょっと異なるような内容が多く取り上げられているのが現状である。

本校では年に4回、いじめや学校生活に関するアンケートを実施している。また、年度始めや年度途中で担任による面接週間というものを実施しており、そういったものからも拾い上げて、その都度対応している。

○校長

いじめとして認知したものは、3ヶ月後まで様子を見て、その後に何もなかったことを確認している。

●委員

それは保護者まで、伝えることになっているのか。

○副校長

ケースや事態の大きさにもよる。本人が訴えて親にも伝えて欲しいというものには伝えていく。本人が言わない場合でも、学校で判断して保護者に伝えることもある。

●委員

「いじめの定義に当てはまる」という説明を受けたが、それでもいじめは人の気持ちの問題なので、なかなか微妙なものもあると思う。結局は「いじめた側」が指導されることが多いと思うが、そこに至るまでに何かしらの要因があると思う。そういったところの把握や分析のようなものをどのようにしているのか。

○生徒指導課主任

今は「物理的なこと」ということではなく、本当に受けた側がどう感じたかという捉え方になっている。いじめの相談を受けて事実確認すると、一応加害者・被害者という言葉を使わせていただくと、実はよく事情を確認していけば、一人の生徒が加害者でもあり被害者でもあるということもあり、対応が難しいという場面もある。

●委員

軽微という用語があるが、それこそ、いじめなのかじゃれ合いなのかの線引きが難しいところがあるのではないかと聞いてみたところである。

○議長

他に何かあるか。なければ最後に総括的な評価ということで、これを取りまとめた上で皆様方のご意見を伺いたい。

●委員

一つひとつ丁寧に配慮していると感じる。多岐にわたって知・徳・体だけでなく防災など、様々なことに取り組むことが多くて先生方も大変だろうと思うところではあるが、生徒のためという姿勢をすごく感じる。

一番良かったことは評価のところであるが、高校に入学して（させて）満足しているというところでAの肯定的な評価が非常に高いところである。それが生徒のみならず、保護者も高いということは、日頃の先生方のご努力によるものではないかと思う。

●委員

とても熱心に取り組まれているという印象を受ける。これからも地域との連携を深めて進めていただきたい。

●委員

PTAの立場からになるが、総じて子供たちのために日々ご尽力いただいていることに感謝申し上げる。そして、本来の授業、あるいは勉強というものを教えていただくばかりではなく、様々な地域や社会の知識についてもご指導いただいていることに感謝しかいようがない。これからもよろしくお願ひしたい。

○議長

その他、ご意見はないか。それではこれで総括的な評価を終わりにして、(3)の高校魅力化システムに移るので、説明をいただきたい。

○企画情報課主任

高校魅力化システムは、昨年度までは本校のように三菱未来育成財団から助成を受けている高校のみの評価であったが、今年度から全国の高校、岩手県の他校も参加している全国的な評価システムとなったため、全国との比較が可能になった。

本校の結果としては、全国と比較して、若干低い項目はあるものの、総じて全国平均より高くなっている。18ページの主体性に関わる学習活動の6番や、社会性に関わる学習活動の14番、社会性に関わる学習環境の19番、29番、32番。それから次のページに行って、探究性に関わる自己認識の61番、社会性に関わるウェルビーイングの58番、60番については全国平均より20%以上、もしくはそれに近い形で高くなっている。非常に地域に大事にされている学習環境であることがわかる。

また、19ページの社会性に関わる自己認識の55番に18歳選挙権を取得したら選挙に行くと思うというものがあるが、全国平均が80%位なのに対し、本校は90%を超えている。陸前高田市青年会議所の主催で選挙について考えるという取組を実施した結果と捉えている。

その他、本校の特徴としては、改善項目なのだが19ページの学習・その他の79番の「まだ

世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい」という項目は、若干であるが、全国平均を下回っている。今、自分で新しい事業をしてみよう、それによって地域を改善してみようという取組が学習の中で重要視されているので、この点を来年度、注力してやっていくつもりである。

●委員

最後に説明のあった「まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出す」といったところに注力していただけるという説明であったが、このことについても私もそのように思っている。

今はインターネットでどんな情報でも取れるが、身の回りに情報が少ないと、世の中にどのような仕事があるかということを見た時に、例えばテレビを見て、テレビの演者とカメラマンくらいは想像できるが、実際はテレビの中で扱っている食べ物とか衣装を作っているだとか、様々な役目があって成り立っている。そういった裏の見えないことを目指すということも必要なのだと思っている。新しいサービスの創出だけではなく、世の中に自分たちの考えられないようなものがあるということをお子供たちが在学中から認識することにより、将来の道の幅が広がっていくのではないかと思う。そのようなことに注力していただけると伺ったので、ぜひとも進めていただきたい。

○議長

それでは（４）の令和６年度スクールポリシー及び重点目標についての説明をいただく。

○校長

３ページを見ていただきたい。令和５年度のスクールポリシー、それから学校経営計画が記載されている。本校の至誠・錬磨・創造という校訓は創立６０周年の時にできたものであり、教育目標とスクールポリシーは昨年度、新しく制定したものである。職員会議にも諮ったが次年度もこのような形で行きたいと考えている。ただし、スクールポリシーに関しては、日々見直すこととなっているので、何かこうした方がいいというご意見があれば出していただきたい。それから４番の目指す学校像について、次年度の重点目標についてはこれから検討していくが、県の教育計画や学校教育指針を参考にしながら、基本的には今年度の重点目標を踏襲したいと考えている。達成指標についてはもう少し検討が必要と思う。それでよろしいか伺いたい。

○議長

ただいま令和６年度のスクールポリシー及び重点目標についての説明があった。基本的には今年度と同じだが、日々見直ししながらということである。ご意見を伺いたい。

○議長

それぞれの項目においてご意見を頂戴したので、それを参考にして運営をしていただきたい。

本日予定されていた協議事項についてはこれで終了とさせていただく。司会を副校長に願います。

(4) その他

○副校長

それでは5のその他について何かある方はいるか。

●委員

13ページから16ページに保護者からの意見が記載されている。この中にはそれぞれの保護者の立場で感じていることが意見として載っている。例えば13ページの「予算がないからとエアコンの使用を制限しないで欲しい」という意見がある。これに対して学校からは努力していくものという区分と回答している。しかし、努力といいながらも学校が努力してどうにかなるものでもないと思う。例えばこういった運営協議会の中で、委員の皆様にご賛同いただいて声を上げることによって、予算要求といったものにつなげていけないかと思う。

また、BRTの駅への停車の件や、夢アリーナから学校までの道の件も、正規の道路ではないところを通っているので、地主のご厚意によるところがあり感謝しているのだが、照明を設置したい時の窓口に関しても、この協議会の名前を使わせていただき要望などさせていただければありがたい。学校からのお願いではなく、PTA、保護者からの願いとして説明させていただいた。

○事務長

エアコンの関係であるが、年度当初に配分された予算で1年間を見ていくことになるので、夏場暑いからといってクーラーを使いすぎると、冬の暖房費がなくなることもあるので考えながら使用している。実際、年度当初にエアコンについては県の基準の28°Cを超えた時につけ始めることにしている。生徒にとっては暑がりの生徒とそうではない生徒がいて、夏場でも長袖でいるという事例もある、また、吹き出し口に近いか様々あるということで、個人差があるということをご了承していただきたい。

○副校長

JRについては、学校側の要望を聞いてもらえたという印象である。ダイヤ改正が年に1回なので、もし、お願いを聞いてもらうことになっても1年先となってしまう。また、夢アリーナから学校までの道については、電気は市の方で担当されているというところまでは確認している。

●委員

住田から高田に通学するバスが今はあるが、来年度以降も継続してあるのか。学校が関係していることではないかもしれないが、教えて欲しい。

○副校長

県交通が今年度で住田線を廃止することに伴い、来年度からは市の方で代替のバスを運行していただくことになっている。便数は今より1本少なくなるが、生徒の登下校に影響がないように配慮していただいている。運賃も1乗車100円ということで、往復で200円となる。授業日数の約200日をバスで通学すると年間約4万円となり、今よりは少し高くなるとのこと。定期というものはない。

●委員

陸前高田市公共交通会議というものにPTAの代表として参加しているが、市が予算を出して運行するのであるが、一番のターゲットは高校生なので、登下校に合わせたものになっている。バスという形にはなっているが、貸し切りバスなので定期はない。

●委員

現在、高田高校の生徒はアルバイトは許可されているのか。

○企画情報課主任

許可制で実施しているが、基本的には長期休業中であり、家計状況の悪化といった条件で随時申請を受け付けている。許可制といいながら、積極的に社会へ生徒を出していくというスタンスでやっている。冬は80人くらいがアルバイトをした。年間だと3分の2くらいの生徒がアルバイトを経験している。

●委員

私の事業所に冬休み前くらいに、アルバイト募集しているかと保護者の方から問い合わせがあって、私の会社は運転ができないとだめなのでお断りしたのだが、ではどこかアルバイトを募集しているところはないかと聞いてきたので、私が思いつくところを教えてあげた。実際にそこで、生徒さんがアルバイトをしたそうだが、事業者の方からもすごく良かったとのことであった。

飲食店は年末年始忙しいし、従業員も働き方改革で休ませなければならないので、事前に高校生の皆さんや学校から、営業ではないが情報提供があれば事業者さんも募集しやすいと思う。

○企画情報課主任

長期休業に入る1ヶ月位前に、アルバイト希望者の集会をやっている。その時点で学校に直接求人 coming しているものについては紹介している。事業者さんとお話しさせていただいた時、アルバイトの募集がある時には、直接学校にFAXでも構わないので知らせてほしいとは言っている。今まではあまり生徒が自ら開拓することはなかったのだが、今の話を聞いて生徒の社会性が育ってきたと感じている。ご迷惑をお掛けしたが、今の話は嬉しく伺った。

●委員

アルバイトには規制等があるのか。

○企画情報課主任

生徒指導の協議会である程度の規制は決めている。例えば酒を提供する店は禁止となっている。学校なので、学業が優先であり、いわゆる赤点を取った場合には、よほど家計が苦しい場合を除いて認めていない。

●委員

情報提供をしたい。昨日、岩手大学の釜石キャンパスで水産コースの学生による卒業研究発表会があった。そこで陸前高田の北限のゆずを乾燥させた粉末を餌に混ぜてサクラマスの養殖を行ったという研究があった。ゆずを混ぜることによって、サクラマスの身が柔らかくなって、風味が増したという結果がでた。こういった研究を高校生にも聞いてもらう機会があったり、一緒にコラボレーションできることがあったらと思う。

○海洋システム科主任

来年度は積極的に外に出て学習を深めようと思っている。その際にはよろしくお願ひしたい。

○副校長

その他なければこちらから一つある。委員の任期についてである。任期は1年となっているが、複数年委員になることを妨げるものではない。基本的にはそのまま翌年も委員についてご依頼したいと考えている。転勤や部内異動等により委員を降りる場合には連絡をいただきたい。

(5) 諸連絡

○副校長

それでは6の諸連絡(1)令和6年度第1回学校運営協議会について、4月中旬から下旬を予定している。近くなったら、日程等の調整をさせていただくことになる。

最後に1点。本日の旅費であるが、旅費支給の対象の方には後日振込となるのでご確認していただきたい。

これをもって第2回学校運営協議会を終了とする。